

11/18 元気さと団結力を武器に北海道3位
少年軟式野球 千歳選抜チーム



市内の野球少年団から選出された軟式野球チーム「千歳選抜」が、10月に苫小牧市で行われた北海道学童軟式野球都市対抗戦で3位に入りました。千歳選抜は、メンバーを選出した荒川 拓也 代表が「もともとはライバル同士だが、すぐに打ち解けて今までにないくらい雰囲気の良いチームになった」と話す、団結力が強みのチーム。同大会での成績により、12月に佐賀県で行われる第21回青山杯西日本友好学童軟式野球大会への出場を決めました。青山杯を前に、出場報告のため市役所を訪れた千歳選抜。キャプテンを務める佐藤 巧都さん（北陽小6年）は「チームにムードメーカーがたくさんいるので、元気で相手を圧倒したい」と大会の抱負を話しました。

11/16 レバンガ北海道バスケットボールクリニック
プロの技術を間近で体験



千歳レバンガの会が、ダイナックスアリーナでバスケットボールクリニックを開催。市内中学校のバスケット部に所属する男女約80人が参加しました。クリニックはプロバスケットボールチーム「レバンガ北海道」で活躍する菊地 広人 選手、鈴木 悠介 選手、松下 裕汰 選手を招いて行われ、生徒たちはスキルアップ指導やミニゲームを通じ、技術を学びました。ミニゲームでは、3選手が中学生を相手にプロの技を披露。豪快なダンクシュートや華麗なドリブルムーブが飛び出すと、コート内外から大歓声が上がりました。菊地選手にドリブルを教わった北斗中女子バスケットボール部の生徒たちは、「ターンのやり方をわかりやすく教えてもらった。まずは市内大会での1勝をめざして頑張りたい」と意気込みを語りました。

11/8 千歳ライオンズクラブ チャリティキッズバザー
子育て世帯を応援



千歳ライオンズクラブが、鉄東コミュニティセンターでキッズバザーを開催しました。キッズバザーは今回で第5回目を迎えたチャリティイベントで、おさがりで募った子ども服や小物、おもちゃ、絵本などを50円（一部個別価格あり）で販売。収益は経費を除く全額が、市内の子育て支援活動などに寄付されます。千歳ライオンズクラブの岩崎 朋久 会長は「地域の方とのコミュニケーションの場を広げ、必要とされる奉仕団体となれるよう頑張ってもらいます」と話し、同クラブ千歳子育て支援支部の外山 悦子さんは「多くの方に来ていただき感謝しています。子育て世帯のお役に立てたなら光栄です」と話しました。

11/14 新しい趣味を見つけよう
大人の習い事フェス



千歳青年会議所が、新しい趣味やスキルを身につけるための「大人の習い事フェス」をバルクラシックリアン CHITOSE で開催しました。同イベントはゴルフ、パーソナルカラー診断、コーヒー、美文字、メイク、スマホ写真、マジック、ヨガ、イラスト、英会話のうちから3つを選択しグループで体験レッスンを受ける形式で、20～30代の市民を中心に63人が参加しました。コーヒー、英会話、イラストの順で参加した佐々木 陽子さんは、イラストレッスンを振り返り「最初にコツを先生に教えてもらい、上手に描けるポイントがわかった。普段うまく描けないときは気分が下がったりもしたが、家でも自分の時間を使って描いてみたい」と話しました。

11/15 チトセコの“学ばさる”出前授業
気候変動を自分ごとに



気候変動問題についての啓発を行っている団体「チトセコ」が、みどり台小学校で出前授業を行いました。授業は6年生が対象で、スライドを用いて市内のCO2排出状況やカーボンニュートラルの基礎知識などを解説。グループディスカッションでは「車とバス、CO2排出量が多いのはどっち？」など、身近なテーマを軸に、小学生が気候変動問題を自分ごととして考えるための工夫がされています。チトセコ代表の角谷 日花里さんは「私たちは気候変動問題について楽しく『学ばさる』ことを大切にしています。今日の授業をきっかけに、小さなことでもいいから行動につながってくれたら」と話しました。

人のうごき

《総人口》
97,347人（-109）
男性 49,473人（-43）
女性 47,874人（-66）
《世帯》52,343世帯（-73）
（ ）内は、前月との比較です。

12-1 現在

広報ちとせからのお知らせ

広報ちとせの発行日は毎月10日です。この日までに届かないときは、次の番号にご連絡ください。なお、町内会に加入している方にはお送りしません。

広報広聴課 広報係
☎(24)0104 FAX(22)8851

百年物語
ちとせ空港
手づくりの着陸場から新千歳空港へ
開港100年の歴史を振り返る

Vol.20 千歳村から千歳町へ

年には千歳初の映画館「千歳座」が開業しました。その翌年には千歳駅から海軍航空隊までの間に、総延長1720メートルの軍用道路が開通。当時としては珍しいコンクリートの舗装道路で、市街地に突如出現した真つ白な道路に、村民はもとより、千歳駅に降り立った人々は息をのみました。

一変した市街地
海軍航空隊の開隊は、飛行場の永続使用という千歳村の悲願を実現しただけでなく、さらに別の恩恵ももたらします。海軍が現在の真々地や春日町などで建設を進めていた、隊員が居住するための大規模な宿舎が落成し、多くの隊員が千歳村に流入してきました。これによって市街地の様相は一変。料亭や割烹など、隊員相手の高級料理店が立ち並び、昭和15

村の人口は激増し、開隊当初には1万700人ほど

海軍航空基地の建設を機に、上昇気流に乗る千歳町。しかし、忍び寄る戦争の足音が、発展を続けるまちに暗い影を落とすこととなります。

コンクリートの舗装道路（昭和16年ごろ）

町制施行時の記念写真（昭和17年5月1日）